

## 今、どうして山内でふるさと絵図か？

山内には、奥山の暮らしの中に、自然にまつわる民話や「天狗」伝説、寺社にまつわる民話等があり、今でも語り継がれています。また、一部の集落には東海道が通り、亀山の関宿～土山宿までの中間地点で、その境界は今も屋号が存在しています。

昭和に入り、昭和30年以前の機械化が進む前には、9割が百姓と山仕事という暮らしの中で、村同士、隣同士、人同士が「かたみわけ」と言った“手間”のやりとりが行われ、現代希薄になりつつある助け合いや支え合いの福祉の精神や自然との共存、環境に配慮した暮らしが普通に存在していました。

子どもが減って高齢者が多くなる山内のできることに、それは、尊厳ある先人の知恵は未来につながる歴史として後世に残していくことではないでしょうか？

地元の子どもたちだけにとらわれずに、他所に発信し、他所から見に訪れる文化と知恵がいっぱい詰まる絵図を地域の宝として創りだし、地域を元気にしようと立ち上がりました。

山内ふるさと絵図作成委員会

## 安土 老蘇（おいそ）地区での取り組み

～地域につながりと出会いを～ 老蘇地区まちづくり協議会 川瀬新作氏

平成26年10月に老蘇コミュニティセンターが完成するまでの老蘇地区は、自治体単位と行政のつながりであり、連携意識が低い地域でした。その後、心象絵図 絵屏風との出会いにより全員参加のまちづくり「つながり、出会い」のまちづくりとして『ふるさと絵屏風づくり』

に取り組まれることになり

ました。過去の思い出を

伝えるだけでなく、これからの

老蘇学区への大切なメッセージとして

描かれたもので、訪れる多くの方々へ

老蘇地区の良さを発信したいと考えておられます。



## 滋賀県下30か所で展開されるふるさと絵屏風とは？

(滋賀県立大学 上田洋平 助教授)

「ふるさと絵屏風」は、ある集落や地域を対象にして、そこに生きる一人ひとりの心に息づく思い出を集めて描く、地域の「生活ものがたり絵」です。人々の心に刻み込まれたふるさとの印象を表現するので、「心象絵図」とも呼ばれています。その土地の生業や生活風俗、祭りや行事、四季のうつろい等、絵屏風に刻み込まれるのは、地域における人々の生活のあらゆる場面に及びます。

「ふるさと絵屏風」は、完成後の活用が大切です。例えば、小学校での地域学習の時間に、絵屏風を見ながらお年寄りが語り部として自らの体験を語る「絵解き」をしたり、お盆にお寺でこれを囲めば、久々に集う親類同士が懐旧の情を深めます。絵を見たときに、認知症の方の身ぶり手ぶりが甦り、ワイワイとお話の輪が広がるという事もあり、介護予防への活用も試みられる等、さまざまな活用が期待できます。

# よみがえる！ふるさと山内

人の記憶を価値ある地域の宝とし、未来を創ろう

日時：平成27年8月27日（木）

13:30～16:00

場所：山内六友館（甲賀市土山町黒川1970）  
山内地域市民センター横

参加費：なし

主催：山内ふるさと絵図作成委員会  
山内エコクラブ

協力：山内ゆうゆうクラブ  
山内回想遺産づくりグループ

## 【プログラム】

13:00 受付

13:30 開会 趣旨説明

13:40 「ふるさと絵図」事例紹介

近江八幡市 安土町 老蘇地区まちづくり協議会  
事務局長 川瀬新作氏

14:30 山内の記憶マンダラづくり

山内地域の五感アンケートからマンダラ図を作る

16:00 閉会



懐かしの・・・

